

ただひたすらむりようじゅぶつのなをとなえる

一向専称無量寿仏名

〔善導大師『観無量寿経疏・散善義』〕



ひたすら歩き続ける

仏教詩人で書家の相田みつをさんに、こんな詩があります。

『道は一本／単純で／真ツ直ぐがいい／何かを欲しがると／欲しがったところが／曲がる／道は一本／まっすぐがいい』

私達は、何かを欲しがり、欲を出すと、歩いていく道が乱れるのです。でも、その欲を捨てられないのも私達なんです。かたしいことです。自分自身の力では、欲をおさえることも真つ直ぐ歩くこともできない。そんな私達は、仏様のお導きに従って、曲がった道ながら、少しずつ前に歩むしかないのでしょうね。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、愛知県在住 水野治良様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末、切一名に進呈。

独り来たり
独り去る

一人として
従う者なし

—大 経—

四人の妻という説話がある。

四人の妻をもった男性が、死ぬ前にそれぞれの妻を枕もとに呼んで、こう尋ねる。一番寵愛していた第一の妻に

「わしはもう終りだ。あの世までついて来てくれるか。」第一の妻は

「とてもとても そんな事はできません。」そう答えた。

第二の妻も同様の答えをした。第三の妻は「ご命日には花を供え、供養もいたしますが、それだけではできません」と。普段下女のように扱っていた第四の妻は、こう答えた。

「どこまでも、あなた様のいかれるところへついて参ります。」

第一の妻とは大切にしてきた身体のこと。第二の妻とは財産名誉。第三の妻とは實際生活と共にした妻。第四の妻とは、この世で積んできた善や悪のこと。

肉体は滅びても、それだけは後の人の心の中に残りつつづけるのですね。

総本山 永観堂 禅林寺

総本山の禅林寺法主系也



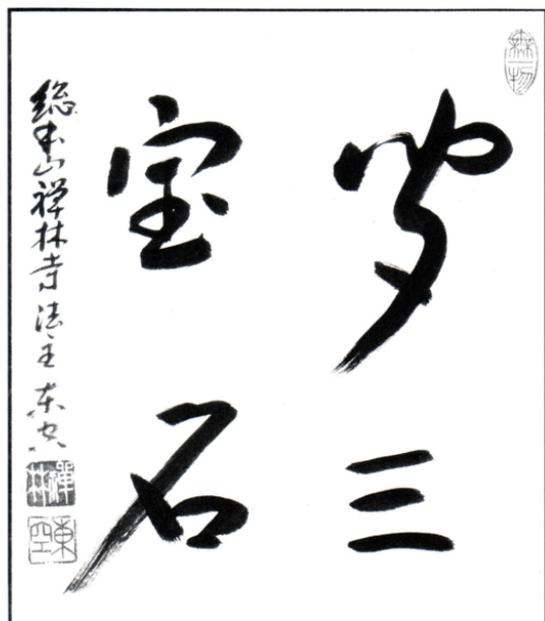
独り来たり
独り去る



右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県高砂市在住 馬場みどり様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

聞三宝名

即得往生



み仏の声を 心でキャッチ

昨今の携帯電話の普及には目をみはるものがある。道路を歩きながら電話で話をしている人。また車の中でピ・ポ・パと相手の番号をプッシュする人。便利になったものだ。どこにいても、何をしていても、携帯電話さえ持っていれば遠くにいる人の声を聞くことができる。

しかし、何も持っていないくても、いつでもどこでも聞ける声があります。両手を静かに合わすだけで、私の心にきこえてくるのです。

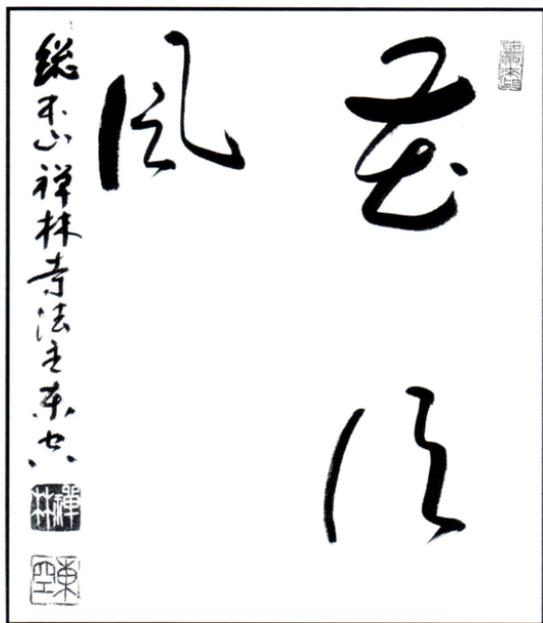
仏様のねがいが。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 准玄親下のご染筆です。前号の色紙は、北海道石狩郡在住 橘 寿範様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。×切毎月末抽籤で一名に進呈。

仏の大悲だいひは、大いなる風のごとし。
 もろもろの世界せかいに行いずるに障しょう碍がいな
 きゆえに。

無量寿経



季節がめぐるたびに、花が咲き虫が鳴く。
 それは各季節の風が、虫や花を活かすからで
 す。そんな風のことを「花信風かしんふう」といいます。

風は、大悲のあらわれ。風は永遠なるもの
 がわれわれに送ってくれる呼びかけであり、
 うながしです。

誰かが何かをする時、あるいは、ひそかに
 悩み苦しんでいる時、励まし、あたたかく支
 えてくれる周囲の力こそ、心の花を咲かせる
 「花信風」です。

あなたのまわりに大きな花を咲かせる、心
 地よい花信風を吹かせてみませんか。

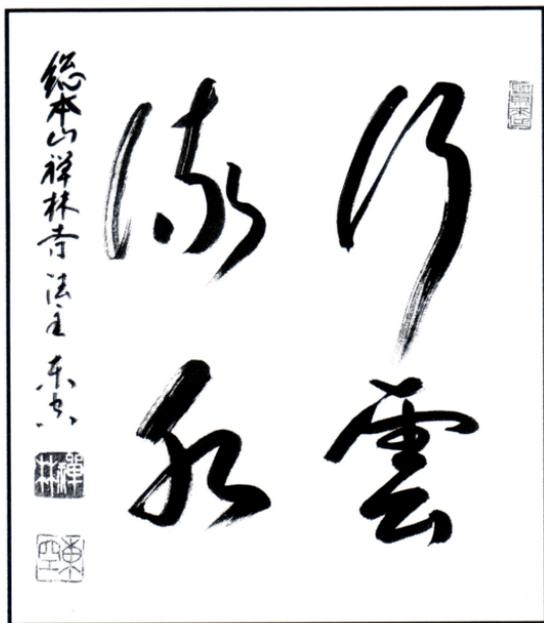
総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 准玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜県美濃市在住 小熊よ志様に贈呈いたします。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

河の早き流れの往きて
帰らざるが如く
人命もかくの如し

『出曜経』



空を飛ぶ鳥は

その軌跡を残さない。

明け方に見た夢は夢であって、

同じ夢に帰ることはない。

とうとうと流れ往く何の流れが、

再びもとの流れに

もどらないように、

私の命も再び帰ることはない。

だから潔く日々新たに、

精進してゆくのだ。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県加古川市在住 清田嘉弘様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

仏法の大海には

信をもつて能入となす

大智度論

以信爲能入

総本山 禅林寺法主 東也



「極楽は本当にあるのですか。地獄は。」

仏さんは。」

と色々たずねられます。

そんなとき私は、いつも、

「あるとか、ないとか言う議論は無駄です。無意味です。」

と答えています。

仏教は仏さまが説きたまう教えを、認めなければ、信じなければ、成り立ちません。その前に極楽が、地獄があるとか、ないとか、詮索しても意味がありません。私たちははやくみ佛の教えに出会いたいものです。

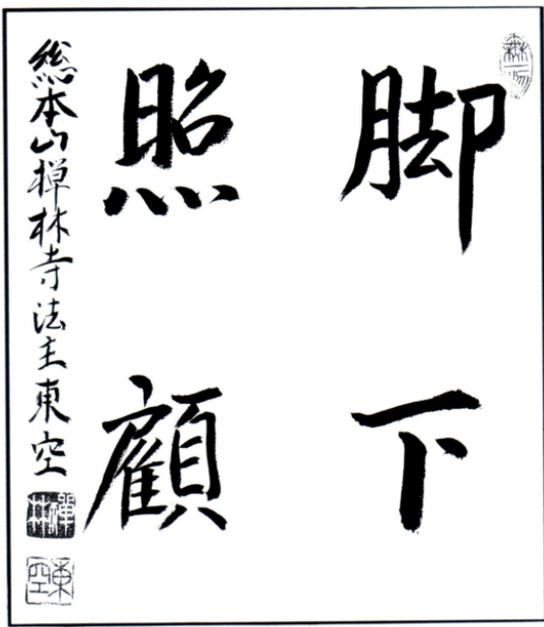
総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森

准玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県加西市在住 豊田喜美男様に贈呈いたします。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

脚 下 照 顧



あふれる情報

多くの情報が私たちに入ってくる。このおかげで現代人は本当に物知りになったものだと感心する。

一方、「現代人はいろんな事を知っている。しかし自分を知らない！」と言った人がいる。よく考えてみると、本当にそうかもしれない。

自分自身をつきつめていくと、**完全ではない自分・不完全な自分に**気付く。

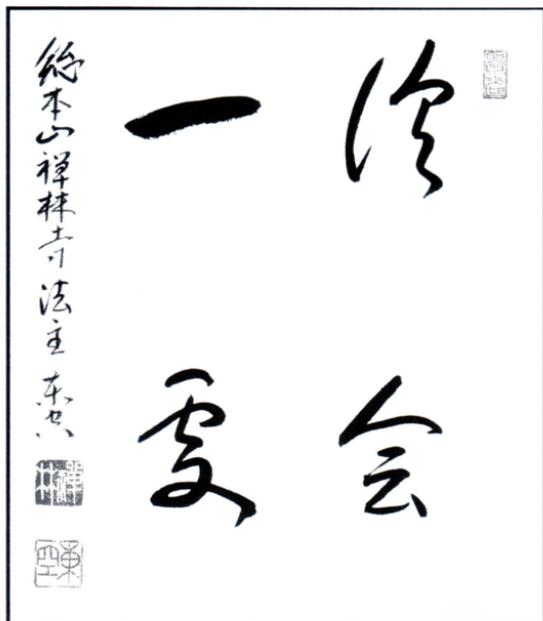
それが仏様の教えに目覚める第一歩です。足もとを見ると、**自分自身を深く追及すること**なのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 准玄 猊下のご染筆です。前号の色紙は、京都市下京区在住 佐々木英二様 に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

俱く
 会え
 一いつ
 処しよ

— 阿弥陀経 —



別れが

とても辛いです

涙が

とめどなく

止めどなく

流れてきます

でも

信ずればいいんですね

お浄土で

必ず

かならず

会えますね

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 准玄親下のご染筆です。前号の色紙は、北海道岩見沢市在住 石川豊子様 に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

無む量りょう寿じゅ佛ぶつ

應おう声しょう即そく現げん

— 観經四帖疏・定善義 —

應 聲 即 現

浄土宗西山禅林寺派宗務所



母の願い 子の願い

泣く赤ん坊のくちびるに、母の乳首が触れると、無心に吸いついてゆく。お腹をへらした幼子に、母が「あーん」といってご飯を運ぶと、無心に口を開いて食べる。

母は子の願いを知っている。母は子の悲しみを知っている。

だから、たちどころに應えてくれるのだ。仏はさまざまに姿を変え、私達ひとりひとりの願いを満たしてゆく。

では、どうすれば應えてくれるのだろうか。それは、ひたすらに名を称えること。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄猊下の二染筆です。前号の色紙は、京都市伏見区在住 伊原いと 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。

悪事は自ら己に向け

好事は他人に与えよ

— 菩薩戒経 —

平成八年十月十九日〜廿三日

西山國師七百五十年

遠忌法要厳修

総本山永観堂禅林寺

例えば、うっかり茶碗を自分で割った時、

「ああ、茶碗が割れてしまった」といいます。

もし、他人が茶碗を割ったなら、

「また茶碗を割りやがった！」といっています。

他人の失敗を見つけると、鬼の首を取った

ように責めたて、責任を問います。

けれど、自分の失敗は、かくしたり笑って

ごまかしてしまいます。

そんなわがままな私を、如来さまはちやん

と見通していらつしやいます。

総本山 永観堂 禅林寺

平等に一切に施す

— 善導大師・玄義分 —

やさしさといつくしみ

人は年を重ねます。その歳月のなかで、様々な苦しみに出会います。その苦しみは、老・病・死に尽きます。

しかし自らの体を愛しみ、自らの心をかばってきたように、どれほどに人にもなしてきてきたであろうか。

自らを愛するとき、それと同じように人にもその愛を振り向けねばならない。生きとし生けるものに向ける普遍的な心を「慈悲」という。

如来は常に、この不可能に近い慈悲を実践しつづけている。

慈とは、いつくしみ。悲とは、どのような生きものにも無差別にそそがれる優しさ。

総本山 禅林寺 法主 东也



平等施

一切

総本山 永観堂 禅林寺

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい 毎月末、切一名に進呈。

仏の強縁ごうえんを

忘るること忽なかれ

西山国師『鎮勸用心』より

撮心考
在祥

総本山禅林寺法主 永観堂 禅林寺



私はお酒とタバコが大好きです。心では健康のために、そろそろ止めなければと、量を減らそうかと思っています。

しかし、なかなか、その気になりません。死は今すぐとは思いませんから、あれもしたい、これもしてと思っています。

沢山の書籍、心置きなく本の読める書齋。アマチュア無線、科学、写真、機械いじりに、苔むす庭造り。

あの国この国、海外旅行。ゆっくり温泉も。家族、友人との他愛もない談笑……。

この世に存在した、何かの証しが残したい。命を全うして、長生きしたい。

ガンにはなりたくないし、痛いのが苦しいの、痒いの、こそばいの、みんないやだけれど。心静かに、死を迎えたい。

たとえ地獄に堕ちたとしても、決して恨まず。まして、かわいい孫や子供たちに、出来るとしても、悪さをしたり、たたり決していたしません。

ただ、心焦りながら、見守りたい。幸せを願いつつ。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、神戸市在住 内田千枝子様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。